

Withコロナ社会での多職種連携  
～めざす姿の実現に向けて～

彦根市立病院

地域連携センター 患者家族支援室  
中居 由美子

# 当院の新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年4月6日

初めての  
新型コロナウイルス患者が入院

令和2年4月20日

コロナ専用病棟を開設



# コロナ専用病棟の経過

## 令和2年

- 第1波・・・自分たちが感染しない  
院内感染の発生を防ぐことを最優先
- 第2波・・・コロナ陽性患者の人工呼吸器装着患者の管理
- 第3波・・・県内発生のカラスタターへの対応  
透析患者 ターミナル患者の受け入れ  
陽性患者の看取り

## 令和3年

- 第4波・・・「デルタ株」の出現!!  
妊婦の受け入れ
- 第5波・・・抗体カクテル療法

## 令和4年

- 第6波・・・「オミクロン株」の出現!!  
高齢者の増加



# コロナ専用病棟の患者数

令和2年度～令和3年度



# コロナ専用病棟でも退院支援

認知症

誤嚥性  
肺炎

脳卒中

褥瘡

慢性疾患  
の増悪

圧迫骨折

大腿骨  
骨折



# 退院支援の実際

毎週、新規入院患者の  
退院支援カンファレンスを実施しています！

- 入院時情報用紙を参考に環境調整  
自立支援（ADL維持） → 排泄の誘導  
車いすへ移動しての食事の見守り
- 認定看護師の関わり（認知症、褥瘡への対応）  
入院中に褥瘡は治癒へ
- 多職種の間わり（リハビリ、栄養士、薬剤師、臨床工学士）  
ベッドサイドでのリハビリ  
透析の実施  
家族へ退院時に栄養指導、薬剤指導の実施



**制限のある中で、  
できる事を最大限、多職種で支援しています**

## 地域との連携・協力

コロナ患者さんは  
滋賀県内から受け入れ  
後方支援は各医療圏域  
の病院、施設へ調整

- 自宅退院困難となりショートステイへ
- クラスタでサービスのストップし代替えサービスの調整で自宅退院へ
- 施設閉鎖中で戻れず、老健や病院へ退院
- コロナ後の治療継続やリハビリのため転院



退院基準を満たした患者さんは  
他者への感染力はありません  
感染前と同様の生活継続の支援をお願いします

# 新型コロナウイルス感染症患者さんに思うこと

- ・病室から出る事ができない
- ・カーテンで仕切られた空間
- ・関わるスタッフは防護服着用



**ADL・認知機能だけでなく、気力が低下する！！**

そして、最期であっても家族との面会ができない

※リモート面会は可能

だからこそ、思いは・・・

隔離解除となれば、速やかに退院できますように。

課題

精神的苦痛が伴うからこそ退院後が気がかりに・・・  
地域包括支援センターなど地域との連携

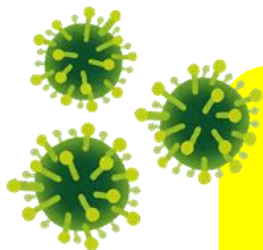


# 病院（医療）の現状

- 2025年が目前、  
医療を必要する高齢者の増加
- コロナ専用病棟開設により、  
一般病床の減少



そんな中、コロナが追い打ちをかける



- 家族がコロナ陽性または濃厚接触者に
- 施設内クラスター発生で帰所できない
- 医療機関のクラスターで転院ストップ

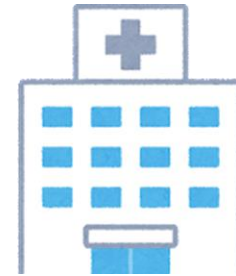
# 機能分化された圏域内の4病院で連携



外来・救急で  
患者をトリアージ

全ての病院  
で  
退院の促進

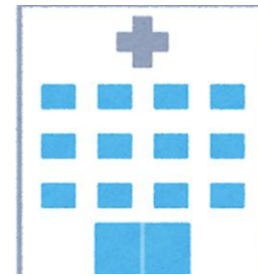
緊密連携



生活、介護の  
課題を連携

在宅へ

在宅へ



# 彦根市立病院は

- 湖東医療圏の急性期病院としての役割

救急患者の受け入れ

救急をストップさせない！！



- COVID-19の重点医療機関に指定

県内全域からコロナ感染者の受け入れ

他病院で治療されたコロナ重症患者の

後方支援病院として受け入れ（一般病棟）



# withコロナ時代

## 湖東医療圏の医療体制を維持

4つの病院で、  
限られた病床を有効活用してくため病病連携

## 介護（生活）

入院してから整えるのではなく、  
入院前から ぼちぼち整える  
退院後から 次に備える（予防）

病院では・・・脳卒中軽度者再発予防支援の促進  
在宅期の患者（外来患者）への気づき  
退院時に病気の予後予測をして連携

ご清聴ありがとうございました